

2011 全米オープンジュニア大会報告



総 括

監督 全国高体連テニス部副部長 大森 徹

今回の遠征は出発を例年より 2 日遅らせて行った。ニューヨークに行ってから予選の始まるまでの時間がうまく活用できていないのではとの反省からだが、練習時間が短くなる分、練習を密度あるものにしようと思えばアメアスポーツ（ウィルソン）をお願いして良い練習相手を用意してもらった。内容のある練習をすることができて予選会に臨むことができたと思う。

練習の時から外国人ジュニア選手やコーチたちの、後藤や伊藤に対する注目度は違っていた。かなり警戒している様子だった。伊藤は 1 R で 1 st セットを取ったものの、残念ながら故障のためファイナル負けとなってしまったが、後藤は 1 R をストレート勝ち、負けた相手選手は「まさか」といった感じだった。2 R はドイツの選手。情報では強打で攻めてくる選手と聞かされていたが、試合では堅実につなぎ、無理をしないプレー展開で臨んできた。後藤は事前に得た情報と違うプレーぶりに自分の気持ちの整理ができず、立ち上がりはリードしていくものの最後まで自分のプレースタイルを発揮することができずに涙をのんだ。（ちなみに、1 R で後藤に負けた選手は、2 R で後藤が負けたと聞いて驚いてい

たそうだ。) 後藤は今回が初めての海外遠征ということで、日本でのように落ち着いて参加することができなかった面もあるが、情報戦の中でいつもの自分のプレーを貫くことができなかったことに悔いが残ったのではないか。しかし多くの選手やコーチが後藤に注目していたのは事実である。

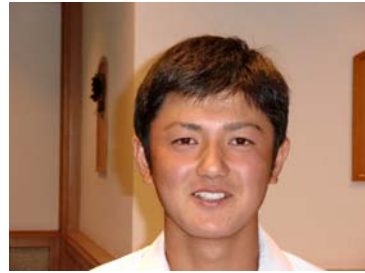
今回の遠征で、インターハイや選抜大会で活躍する選手は、US オープンの予選を勝ち抜く力は十分に持ち合わせていると思った。選手は自信を持って臨み、結果を出してほしい。

大会成績

| | | | |
|-----------|-------|-------------------------|-------------------------|
| 男子予選 1 回戦 | 後藤翔太郎 | 6 - 2, 6 - 2 | GAO Xin (CHN) |
| 男子予選 2 回戦 | 後藤翔太郎 | 3 - 6, 3 - 6 | CHRIST Constantin (GER) |
| 女子予選 1 回戦 | 伊藤 夕季 | 7 - 6 (4), 2 - 6, 2 - 6 | ZACARIAS Marcela (MEX) |



《 選手の感想 》



四日市工業高校 後藤翔太郎

今回の US オープン遠征の機会を与えてくださった全国高体連テニス部の皆様、そして大会前からいろいろな面でサポートしていただいたウィルソンの皆様には本当に感謝しています。

僕は、海外に行くのは初めてでした。

海外での試合では良いところも悪いところも見付き、すごく良い経験になりました。僕の試合は、1回戦目はすごく自分のテニスができるすごく攻撃的にサーブをしっかり打つことができました。しかし2回戦は守りに入ってしまった。守りに入ってサーブも入れに行くサーブになってしまっていて勝つことができませんでした。結果は予選決勝で負けてしまい、本当に悔しかったです。

試合に負けてしまったからは、トップ選手の試合を本当に近い場所で見せていただきました。トップ選手の試合を近い場所から見られたのも本当に良い経験になりました。トップ選手の試合を見て思ったことは、サーブは確率がよくさらに早くてサーブキープが本当に安定していました。しかし、ストロークやボレーなどのスピードは僕でももう少しトレーニングをしたらあまり変わらないくらいだと感じました。トップ選手の試合を見てすごく勉強になって、自分でも勝っていけるのではないかという自信も持つことができました。この経験を生かしてまた来年もアメリカに来て本戦で活躍できるように頑張っていきます。今回は本当にありがとうございました。



富士見丘高校 伊藤夕季

まず、今回このような素晴らしい遠征の機会を与えてくださった全国高体連テニス部の皆様、そして大会期間はもちろんのこと大会前から様々な面でサポートしてくださったウィルソンのスタッフの皆様には本当に感謝しています。

私は US オープンに出場するのは今回が初めてで、アメリカに来たのも初めてでした。今まで ITF ジュニアには何度も出場していたので、試合自体には緊張せずに進めることができましたが、ファーストセットの途中から腰と左足を痛めてしまい、なかなか自分のプレーをすることができませんでした。たくさんの方に応援していただいていたのに応えることができず残念です。今までのフライトの中では一番長い時間乗っていたし、時差も 11 時間あり、自分の体調をどのように整えなければいけなかったのか、自分の体調が悪い中でもどのように勝っていけるようにしなければいけないのか、考えることができとても勉強になりました。

また試合以外の面ではトップ選手の試合を間近で見ることができ、本当にたくさんの収穫を得ることができました。やはりトップ選手は大事な場面でしっかりファーストサーブを入れてポイントに繋げていました。そしてスコアがどうなろうとどこからでもファイトして諦めることなくプレーしていて、この二つの点が私とは決定的に違うと感じました。ですが、ストローク力はトップ選手でもだいたい同じくらいのレベルで、私も今からパワーをつけてスピードさえついていけば充分やりあうことはできるのではないかと感じました。ですがまだまだ自分は足りないところが多いというのを感じることができたので、今後の練習・試合につなげていけるようにしたいです。

約 2 週間の長い日程の間、本当にいろいろなことを経験することができ、見ることができ、感じるすることができ、試合では良い結果を残すことはできませんでしたが、素晴らしい時間を送ることができました。改めて高体連の方々・ウィルソンの方々に感謝したいと思います。この経験を生かして大学・プロの世界で勝っていけるようにしていきたいです。今回はありがとうございました。

